

報告第1号

火打山麓振興株式会社の経営状況について

火打山麓振興株式会社の第24期事業報告、決算報告及び監査報告並びに第25期事業計画及び収支計画について、地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により次のとおり報告する。

令和4年2月21日

糸魚川市長 米 田 徹

第 24 期 事 業 報 告

令和 3年12月11日

1 損益の状況

第 24 期の損益状況は目標利益 350万円でしたが、結果は税引前利益で約 261万円となりました。

以下、部門ごとに内容を説明します。

2 シャルマン火打スキー場の営業状況

(1) 降雪と営業の状況

当期は、昨年 12 月 12 日に株主総会と安全祈願祭を挙行し、12 月 18 日に営業開始を予定していたところ、15 日からまとまった降雪があり、予定日にオープンとなりました。

オープンから年末年始にかけては、コロナ禍の中で不要不急の外出自粛の呼び掛けと他のスキー場にも降雪があったことから、例年に比べお客が少ない状況でありました。

また、1 月 8 日から大雪となり、例年期待の 3 連休前後では、豪雪のため 10 日から 12 日まで休業となり、その後も 19 日には強風のためリフトを運休するなど波乱の多い 1 月でした。

2 月に入っても強風のためリフトの運休や営業時間の短縮が続き、18 日には大雪のため休業となりましたが、19 日から下旬にかけて天候が良くなり来場者が徐々に戻ってきました。3 月、4 月は土日を中心に来場者数も回復し、予定どおり 5 月 5 日まで営業することができました。

今期はコロナ禍に加えて、豪雪と強風によりスキー場の休業が 4 日、営業時間短縮が 3 日、リフトの運休が 2 日、リフトの営業時間短縮が 3 日と厳しい気象状況下のシーズンでありました。

そのため、収益の改善を目指して、春パスの販売を止めるとともに、第 2 ペアリフトを 3 月から平日運休とし、4 月からは全面的に運休といたしました。

以上のことから、当期のスキー場の収益状況は、前期と比較して大幅な減収となり、実質的には約 340 万円の赤字となりました。

(2) 営業方針の取組み状況

① 安全の確保

安全確保を最重要課題と捉え、索道重大事故ゼロをスローガンに通年の計画的な点検・整備を進めてきました。また、過去の遭難事故を教訓に、エリア外滑走による遭難事故ゼロを目標に、パトロール隊員の確保育成と来場者への注意喚起放送などに努め、重大事故ゼロでシーズンを終えることができました。

なお、パトロール隊や圧雪車・除雪車のオペレーター等の専門技術を持った人々の確保が厳しくなっており、大きな課題となっております。

② 新型コロナウイルス感染対策の実施

一般財団法人日本鋼索交通協会作成の「索道事業における新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」を基に対策を行って参りました。

特にセンターハウス内では、入場者のマスク着用と消毒化、検温を進めるとともに、レストランの座席を半減し、アクリル板を設置するなど密にならないよう努めてきました。

③ 障害者スキーへの取組み

障害者と健常者のスキーを通じた交流を標榜し、毎年4月に当スキー場で開催している「アイスティーカップ」は、前期では中止となりましたが、今期は4月3日・4日と2年ぶりに実施し、両日でリフト利用者が800人となりました。

④ 誘客に向けた営業活動

「パウダースノーのスキー場」としての周知やPRなど誘客に向けて、長岡～上越方面、金沢から富山方面、そして関西で広く営業活動を行いました。

なお、新型コロナ感染対策のため、インバウンドの誘客や新幹線糸魚川駅からスキー場までの送迎バス運行は行いませんでした。

⑤ 地元事業所向け前売券の販売

地元のスキー場利用の需要を掘り起こすため、引き続き近隣事業所での福利厚生用の前売券を販売し、14事業所からご協力をいただいた結果、540,000円を売上げました。

3 グリーンメッセ能生（ゴルフ場）・大平やすらぎ館（温泉）の営業状況

（1）営業の状況

昨年10月と11月は、台風もなく天候に恵まれたことから前年を大きく上回る来場者数があり、例年どおり11月23日にクローズとなりました。

本年は、積雪が多かったことから4月17日にプレオープン、24日にグランドオープンしましたが、前年の4月、5月は新型コロナウイルス感染対策により営業休止したこともあり、対前年を大きく上回りました。

前年の6月は、休止の反動から良かった半面、本年は梅雨のため平年並みとなりました。7月は、梅雨明けが早かったことから好調でしたが、8月はお盆前後の長雨により大きく減となり、9月は県のコロナ対策特別警報に準じて糸魚川市から2週間の営業休止の指示があり、営業期間が半減したものの前年同月の7割を確保しました。

以上のことから、当期ゴルフ場の収益状況は、前期に比べ3倍の約600万円の大幅な増益となりました。

（2）営業方針の取組み状況

① ゴルフ場としての品質向上

安価で比較的気軽に利用できるゴルフ場として、一定の評価をいただいているところで

ありますが、施設の管理と従業員の接客対応の向上に努めて参りました。

施設の老朽化に伴う修繕管理については、糸魚川市と協議のうえ計画的に進めているところではあります。

② 新型コロナウイルス感染対策の実施

大平やすらぎ館入口に検温装置と消毒液を設置し、レストランではテーブルのレイアウトを変更するとともに、アクリル板の設置により密にならないように努めました。

③ 4人乗りカートの整備

前期3台購入し計7台となり、今期は増強できませんでしたが、利用者の安全対策のうえからも引き続き糸魚川市に要望しているところです。

④ 水道水源の調査

水道水源取水施設や水道管の老朽化により、新たな水域の調査が必要であり、コンサルタントと相談協議してきましたが、附近に有力な水源が見当たらないとのことでありました。

4 健全な経営の確保

当期のスキー場は、ラニーニャ現象の予報どおり豪雪と強風により、大変厳しい状況でありましたが、一方でコロナ禍によりゴルフ場は好調であり、また、コロナ禍による国の助成もあり何とか黒字となりました。

そのため、現在借入金がない状況であり、厚い内部留保を確保しております。

また、来期は中間納付した税金の還付が約 380万円見込まれており、今後も健全な経営に努めて参ります。

5 会社の株式に関する事項

- (1) 発行済株数 1,000株
(2) 株主数 60名
(3) 大株主

株主名	持株数
糸魚川市	500株

6 会社の概要に関する事項

- (1) 取締役会及び監査役の氏名等

氏名	地位及び担当	他の法人等の代表状況
織田 義夫	代表取締役社長	元糸魚川市副市長
藤田 年明	代表取締役	前糸魚川市 副市長 9月2日退任
中村 康司	取締役	能生運輸 株式会社 代表取締役社長
鈴木 秀城	取締役	株式会社 笠原建設 代表取締役社長
高鳥 健一	取締役	高鳥歯科医院 院長
齋藤 浩	取締役	有限会社 対岳荘 代表取締役社長
大貫 慶一	取締役	能生商工会 会長
渡邊 武	監査役	糸魚川信用組合 営業推進室長
渡邊 辰夫	監査役	元糸魚川市 総務課長

- (2) 取締役及び監査役の報酬等の額

取締役 7名 255万円
監査役 2名 6万円

- (3) 設備投資の状況

有形固定資産

資産の名称	取得年月日	数量	取得価格	部門
ステップワゴン	平成26年 10月15日	1台	2,339,913円	共通
三菱ローザ	令和2年 11月22日	1台	500,000円	共通
合計		2台	2,839,913円	

(4) 財産及び損益の状況の推移

(単位：千円)

区 分	平成29年9月期 第20期	平成30年9月期 第21期	令和元年9月期 第22期	令和2年9月期 第23期	令和3年9月期 第24期
売 上 高	176,301	156,684	169,705	169,917	154,280
当期純利益	9,811	△ 1,036	5,854	17,464	2,431
一株当たりの 当期純利益	9,811円	△ 1,036円	5,854円	17,464円	2,431円
純 資 産	47,767	46,731	52,585	70,049	72,479

(5) 主要な事業の内、事業の内容

事 業	主要なサービス・商品
スキー場事業及び関連事業	索道収入・スキースノボスクール開校・用品貸出・大会
ゴルフ場・浴場事業	ゴルフ場・用品貸出・大会・浴場施設の提供
売店事業	スキー関連用品・ゴルフ関連用品・菓子類
食堂部門	麺類・ご飯類・飲食類

(6) 主要な営業所

名 称	所 在 地
シャルマン火打スキー場	糸魚川市大字西飛山 1821
大平やすらぎ館／グリーンメッセ能生	糸魚川市大字島道 1302-2

(7) 従業員の状況

期末従業員数	在籍人数 (人)	平均年齢 (歳)	対前期末増減数
男	13	59.5	なし
女	8	57.1	なし
合 計	21	58.6	なし

第 2 4 期

決 算 報 告 書

令和 2 年 1 0 月 1 日 から

令和 3 年 9 月 3 0 日 まで

火 打 山 麓 振 興 株 式 会 社

(法人番号:2110001021783)

貸借対照表

商号 火打山麓振興株式会社

代表者 織田 義夫

令和 3年 9月30日現在

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I (資 産 の 部)		I (負 債 の 部)	
流 現 金 及 預 金	(92,615,124)	流 買 未 未 未 未 預 前 仮 賞	(22,176,421)
棚 卸 払 収 還 付 替 払	78,283,592	掛 払 法 消 費 人 費 税 受 引 当	122,948
資 産 用 金 等 金	3,306,440	債 金 金 用 等 金 益 金	2,436,600
	947,320		4,315,906
	727,858		90,000
	3,787,051		349,000
	5,560,816		136,167
	2,047		7,793,000
			5,175,800
			1,757,000
II 固 有 車 工 具 減 価 償 却 額	(6,469,526)	II 固 定 負 債 金	(4,428,986)
定 形 固 定 資 産	(5,410,579)	長 期 未 払 賦 金	4,092,000
運 搬 具 及 備 品	48,730,746		336,986
搬 運 車 両	10,292,913		
工 具 器 具	2,884,048		
一 切 費	310,104		
積 立 金	△ 56,807,232		
無 形 固 定 資 産	(416,667)		
ソ フ ト ウ ェ ア	416,667		
投 資 其 他 の 資 産	(642,280)	負 債 の 部 合 計	26,605,407
出 敷 長 期 前 払 費 用	6,500	(純 資 産 の 部)	
	82,260	I 株 主 資 本 金	(72,479,243)
	553,520	1. 資 本	50,000,000
		2. 資 本 剰 余 金	(0)
		3. 利 益 剰 余 金	(22,479,243)
		(1)利 益 準 備 金	100,000
		(2)そ の 他 利 益 剰 余 金	(22,379,243)
		繰 越 利 益 剰 余 金	22,379,243
III 繰 延 資 産	(0)	II 評 価 ・ 換 算 差 額 等	(0)
		III 新 株 予 約 権	(0)
資 産 の 部 合 計	99,084,650	純 資 産 の 部 合 計	72,479,243
		負 債 ・ 純 資 産 の 部 合 計	99,084,650

損益計算書

令和 2年10月 1日から
令和 3年 9月30日まで

商号 火打山麓振興株式会社

(単位：円)

科 目	金 額		
I 売上高 売上高 売上高 売上高	80,530,774 10,543,178 2,211,093 60,994,539	154,279,584	154,279,584
II 売上高 売上高 売上高 売上高 売上高 売上高	4,370,041 1,588,071	1,014,161 5,958,112 121,879,174 128,851,447 80,239 1,141,744	127,629,464 26,650,120
III 販売費 販売費 販売費 販売費		30,184,156	30,184,156 3,534,036
IV 営業外 営業外 営業外 営業外		856 110 1,087,458	1,088,424
V 営業外 営業外 営業外 営業外		100,848	100,848
経常損失			2,546,460
VI 特別 特別 特別 特別 特別		411,000 4,700,499 45,553	5,157,052
VII 特別 特別 特別 特別		1	1
税引前当期純利益		180,000	2,610,591 180,000 2,430,591

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 2年10月 1日から
令和 3年 9月30日まで

(単位：円)

科 目	金 額
販売員旅費	22,747
広告宣伝費	2,396,818
大会費	228,288
販売促進費	181,709
販売手数料	739,733
役員報酬	2,610,000
従業員給与	9,563,491
従業員賞与	1,668,660
法定福利費	2,312,217
福利厚生費	2,112,783
減価償却費	1,435,612
修繕費	408,530
事務用品費	295,648
通信費	628,960
租税公課	236,878
接待交際費	67,864
保険料	960,488
備品消耗品費	572,015
支払手数料	2,750,319
会議費	95,202
借入料	67,010
燃料費	327,993
雑費	501,191
合 計	30,184,156

棚卸資産の計算内訳

令和 3年 9月30日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商品	1,141,744
貯蔵品	2,164,696
合 計	3,306,440

原 価 報 告 書

令和 2年10月 1日から
令和 3年 9月30日まで

(単位：円)

科 目				企 額
I	材	料	費	
当	期	材	料	0
II	勞	務	費	
賃			金	48,466,241
賞			与	3,864,280
法	定	福	利	4,900,347
厚		生	費	1,907,898
当	期	勞	務	59,138,766
III	經		費	
受	託	業	務	8,303,760
外	注	委	託	12,598,670
電		力	費	8,088,352
ガ		ス	代	982,803
減	償	償	却	880,032
修	租	公	費	6,422,915
租	税		課	84,100
賃		借	料	1,189,915
保		險	料	1,102,690
消	耗	品	費	5,728,331
旅			費	1,454
燃		料	費	12,098,178
通		信	費	432,669
接	待	交	際	551,022
レ	ン	タ	ル	2,172,140
雑		手	数	2,103,377
当	期	経	費	62,740,408
当	期	総	費	121,879,174
期	首	仕	掛	0
合		品	棚	121,879,174
期	末	仕	掛	0
当	期	原	価	121,879,174

株主資本等変動計算書

令和2年10月1日から令和3年9月30日まで

(単位:円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	利益準備金	その他利益剰余金			
当期末残高	50,000,000	0	0	100,000	19,948,652	0	70,048,652	70,048,652
当期末変動額								
当期純利益					2,430,591		2,430,591	2,430,591
当期変動額合計	0	0	0	0	2,430,591	0	2,430,591	2,430,591
当期末残高	50,000,000	0	0	100,000	22,379,243	0	72,479,243	72,479,243

■その他資本剰余金及びその他利益剰余金の内訳書

(単位:円)

	その他資本剰余金の内訳			その他利益剰余金の内訳			その他利益剰余金合計
	資本準備金減少額	自己株式処分差益	その他資本剰余金合計	別途積立金	繰越利益剰余金	その他利益剰余金合計	
当期末残高	0	0	0	0	19,948,652	19,948,652	19,948,652
当期末変動額							
当期純利益					2,430,591	2,430,591	2,430,591
当期変動額合計	0	0	0	0	2,430,591	2,430,591	2,430,591
当期末残高	0	0	0	0	22,379,243	22,379,243	22,379,243

個別注記表

令和 2年10月 1日から

令和 3年 9月30日まで

I. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却方法

(1)有形固定資産

定率法又は旧定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については旧定額法、平成19年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については定額法、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1)賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当期負担額を計上しております。

4. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

III. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数

1,000株

IV. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、72,479.24円であります。

2. 一株当たり当期純利益は、2,430.59円であります。

以 上

附属明細書

商号 火打山麓振興株式会社

事業年度

(令和02年10月1日から 令和03年9月30日まで)

附属明細書の添付状況				
NO.	附属明細書の種類	添付状況		備考
		添付(○)	省略(✓)	
1	固定資産(投資その他の資産については、長期前払費用に限る。)の取得及び処分並びに減価償却費の明細	○		
2	引当金の明細並びにその計上の理由及び額の算定方法	○		

1. 固定資産(投資その他の資産については、長期前払費用に限る。)の取得及び処分並びに減価償却費の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首取得価額	当期増加額	当期減少額	期末取得価額	当期償却額	減価償却累計額	差引帳簿価額	償却累計率
有形固定資産	建物	48,730,746	0	0	48,730,746	965,505	43,845,654	4,885,092	90.0%
	車両運搬具	9,792,913	500,000	0	10,292,913	458,333	10,251,237	41,676	99.6%
	工具・器具・備品	3,284,048	0	400,000	2,884,048	21,249	2,710,341	173,707	94.0%
	リース資産	4,123,296	0	0	4,123,296	787,224	3,813,192	310,104	92.5%
		計	65,931,003	500,000	400,000	66,031,003	2,232,311	60,620,424	5,410,579
区分	資産の種類	期首取得価額	当期増加額	当期減少額	当期償却額	期末帳簿価額	/		
無形固定資産									
	計								
投資その他の資産									
	計								

2. 引当金の明細並びにその計上の理由及び額の算定方法

(単位:円)

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
貸倒引当金	0	0	0	0
賞与引当金	2,168,000	1,757,000	2,168,000	1,757,000

・引当金の計上理由及び算定の方法は個別注記表に記載しています。

監 査 報 告 書

火打山麓振興株式会社

代表取締役社長 織 田 義 夫 様

私ども、第24期事業年度の計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表）及び事業報告書並びに付属明細書に関し、次のとおり監査を実施した結果、適法かつ正確であることを認めます。


記

監査期間：令和2年10月1日から令和3年9月30日まで

監査内容：第24期事業年度 決算監査

令和3年11月11日

監査役 渡邊 武 

監査役 渡邊 辰夫 

第 25 期 営 業 方 針

令和 3 年 1 2 月 1 1 日

1 全体の方針

地域のスキー場とゴルフ場を運営する企業として、安全をすべての土台として利用者の皆様楽しんでいただけること、「地域振興」「地域の雇用確保」の役割を担うことを全社の目標とします。これらの使命を継続的に果たすには、適正な利益を確保し、安定した企業経営を行うことが必要です。そのために、社員相互やお客様とのコミュニケーションを高め、目的を共有することに努めたいと考えます。

当社の営業は、気象等に影響を受けやすい体質ではありますが、新たな需要の拡大に努め、3,500千円の利益を目指します。

2 シャルマン火打スキー場の営業方針

(1) 安全の確保

索道重大事故や遭難事故ゼロを目標に、索道の通年をとおした計画的な点検・整備を進めるとともに、パトロール隊員の確保育成に努めて参ります。

(2) 新型コロナウイルス感染対策の実施

一般財団法人日本鋼索交通協会作成の「索道事業における新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」を基に対策を行って参ります。

当社としましては、施設全体のマスク着用と消毒化を進めるとともに、特にセンターハウス内のレストランでのコロナ対策を重点的に進めて参ります。

(3) 障害者スキーへの取組について

毎年恒例の「アイスティーカップ」を今シーズンも開催する予定であり、「障害者に優しいスキー場」として取り組んで参ります。

(4) 誘客に向けた営業活動について

「パウダースノーのスキー場」としての周知やPRなど、誘客に向けた営業活動を鋭意進めて参ります。

(5) スキースクールの変更について

スキースクールをこれまでのDSAカンパニーからオーストリアスキー教室に変更し、同教室が自主運営することから経費の削減に努めて参ります。

3 グリーンメッセ・やすらぎ館の営業方針

(1) ゴルフ場としての品質向上

お客様に好かれるゴルフ場を目指して、従業員とともに品質向上に努めて参ります。施設整備から20年以上が経過し老朽化が顕著となっているため、糸魚川市と協議して施設の修繕管理を計画的に進めて参ります。

(2) 新型コロナウイルス感染対策の実施

感染対策に一定の成果はでてきているものの、引き続きレストランを中心にコロナ対策を進めて参ります。

(3) 4人乗りカートの整備

利用者の安全対策のうえからも4人乗りカートの整備について引き続き糸魚川市へ要望して参ります。

(4) 水道水源の調査

水道水源の不具合により、年に何度か断水していることから、水源の確保対策について糸魚川市とともに調査検討して参ります。特に具体的な方策について、一定の方向性を定めたいと考えております。

目標変動損益計算書

第25期(令和 3年10月 1日～令和 4年 9月30日)

商号：火打山麓振興株式会社

作成：R 3.11. 9(17:57)

(単位：千円)

項 目		次期計画 (A)	構成比	当期実績 (B)	構成比	差 額 (A-B)	対 比 (A/B)	注	備 考
売 上 高	事業収入	1	75,682	49.8	80,530	52.2	-4,848	94.0	*
	レストラン売上高	2	13,000	8.6	10,543	6.8	2,456	123.3	
	売店売上高	3	2,500	1.6	2,211	1.4	288	113.1	
	指定管理料	4	60,818	40.0	60,994	39.5	-176	99.7	
	値引・戻り高(△)	5		0.0		0.0			
	純 売 上 高	6	152,000	100.0	154,279	100.0	-2,279	98.5	
変 動 費	期首棚卸高	7	1,142	0.8	1,014	0.7	127	112.6	*
	レストラン仕入高	8	5,500	3.6	4,370	2.8	1,129	125.9	*
	売店仕入高	9	1,600	1.1	1,588	1.0	11	100.8	*
	レンタル仕入	10	800	0.5		0.0	800		
	商品仕入高	11		0.0		0.0			
	仕入値引(△)	12		0.0		0.0			
		13		0.0		0.0			
		14		0.0		0.0			
	仕入高合計	15	7,900	5.2	5,958	3.9	1,941	132.6	*
	外注委託費	16	13,500	8.9	12,598	8.2	901	107.2	*
	消耗品費・燃料費	17	18,568	12.2	18,154	11.8	413	102.3	*
		18		0.0		0.0			
その他変動費	19	2,000	1.3	10,395	6.7	-8,395	19.2		
月末棚卸高(△)	20	1,110	0.7	1,141	0.7	-31	97.2		
共通原価配賦 変動費合計	22	42,000	27.6	46,979	30.5	-4,979	89.4		
限界利益	23	110,000	72.4	107,300	69.5	2,699	102.5		
固 定 費	給与	24	58,540	38.5	60,639	39.3	-2,099	96.5	
	賞与	25	4,850	3.2	5,532	3.6	-682	87.7	
	福利厚生費等	26	10,328	6.8	11,233	7.3	-905	91.9	
	人件費計 (労働分配率)	28	73,718	48.5	77,405	50.2	-3,687	95.2	
		28	67.0%		72.1%		-5.1%		
	販売促進費	29	4,736	3.1	3,546	2.3	1,189	133.5	*
	事務管理諸費	30	4,382	2.9	4,347	2.8	34	100.8	*
	接待交際費	31	672	0.4	714	0.5	-42	94.1	
	旅費交通費	32	1,028	0.7	1,085	0.7	-57	94.7	
	施設経費	33	16,500	10.9	15,494	10.0	1,005	106.5	*
その他固定費	34	2,500	1.6	2,604	1.7	-104	96.0		
営業外損益	35	-1,000	-0.7	-987	-0.6	-12			
他の固定費計	36	28,818	19.0	26,805	17.4	2,012	107.5	*	
部門固定費計	37	102,536	67.5	104,210	67.5	-1,674	98.4		
部門達成利益	38	7,464	4.9	3,089	2.0	4,374	241.6		
費	減価償却費	39	1,004	0.7	2,315	1.5	-1,311	43.4	
	地代家賃	40	1,067	0.7	1,256	0.8	-189	84.9	
	保険料	41	1,893	1.2	2,063	1.3	-170	91.8	
	設備費計	42	3,964	2.6	5,635	3.7	-1,671	70.3	
	部門貢献利益	43	3,500	2.3	-2,546	-1.7	6,046		
	共通固定費配賦	44							
	部門貢献利益(配賦後)	45	3,500	2.3	-2,546	-1.7	6,046		
	棚卸高増減(△)	46							
固定費合計	47	106,500	70.1	109,846	71.2	-3,346	97.0		
経常利益	48	3,500	2.3	-2,546	-1.7	6,046			

(注)純売上高の「対比」を超える科目に*印を表示しています。

税理士法人 山岸会計

